



上末っ子

令和4年5月31日

6月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用QRコードです。
「学校の様子」から各学年の様子を
ご覧いただけます。

他者と関わり成長する

校長 内田 宏平

学校には、自分以外の人が大勢います。そのため、様々な活動を通して自分以外の他者と関わるすることができます。6年間通うことのできる小学校では、それぞれの発達段階に応じて他者と関わる活動を経験し、自他の成長を実感する機会をもつことができます。

本校では、年間を通して人権教育に取り組んでいます。先日、「人権朝会」をテレビ放送で行いました。「人権」という言葉は、低学年の子どもたちにとっては難しいと思いますが、高学年の人権委員扮する「上末吉ジンケンジャー」のメンバーがテレビ放送で説明してくれました。2年生教室では、「ジンケンジャー知ってる!」「1年生のときに見た!」という声が聞かれました。

難しいことは少しずつ知っていけば大丈夫。2年生は「ジンケンジャー」を知っているのです。1年生のときよりも知っているのです。それが大事。他者と出会い関わったことで、昨年の自分よりも成長した自分になっているのです。6年間居られるのですから、あと数年したら、この子たちの中から次のジンケンジャーが現れ、後輩たちに「人権」について伝えていくことになります。上末吉小文化のよさを実感します。



ウォークラリーでは、みんなで協力してゲームに挑戦し、パスワードをゲットしました!

フレンズ活動(1～6年生で編成したグループによるたてわり活動)では異学年の他者と関わる機会が多くあります。

先日実施した三ツ池公園への全校遠足は、このフレンズのグループで活動しました。

下級生が安心して活動できるよう優しい表情で声をかける6年生。疲れた子を励ましたり荷物を持ってあげたりする6年生。とにかく、最高学年である6年生の頑張りは素晴らしかったです!

何人かの6年生の声を聞いてみると、「去年までとは全然違います!」「(下級生の前では疲れた表情は見せないけれど、本当は、) 疲れました…」とのこと。

事前準備を含めて、よく頑張った6年生!初めての経験が続くけれど、その背中を見て下級生は憧れを膨らませていきます。下級生にとっての「なりたい自分像」がすぐ近くに存在する幸せ。今の6年生も数年前までは低学年でした。きっと、素敵な先輩たちの姿を見て成長を重ねてきたのでしょう。自分の学びを次の世代に受け渡していく。これも、豊かな関わりがあるからこそ実現させることのできる姿です。

また、三ツ池公園と学校間の行き帰り時には、PTA 校外委員の皆さんや学援隊の宅間さんが、子どもたちの安全を守ってくださいました。夏日を思わせる暑さの中、笑顔で子どもたちを見守っていただいた皆様には感謝の気持ちで一杯です。6年生が1年生を見守るように、大人が子どもを見守る。世代を超えて関わる愛情が学校や町を豊かにしていることを実感します。本当にありがとうございました!

全校遠足から学校に戻り、フレンズ教室から自分の教室に戻ります。給食です。校内の様子を見てみると、高学年の委員会活動が当たり前に行われています。非日常の活動から気持ちを切り替えるのは大人でも難しいところですが、それをしっかりと行い、他者のために行動できる。これも上末っ子のすごさだなあと心が温かくなりました。

日々、あらゆる場面で、いろいろな関わりが生まれます。ときには、子どもたちが悩んだり困ったりする関わりもあるかもしれません。子どもたちの思いに寄り添いながら、他者との関わりをポジティブなものに変換させ、それらを子どもの成長へとつなげていくのは、我々大人の担う重要な使命だと考えます。

子どもたちが他者との関わりを通して幸せに生き抜く力を身に付けられるよう、今月も保護者の皆様、地域の皆様としっかり連携していきたいと思えます。